



### 8月豪雨の災害ごみ処理と今後、新ごみ処理施設整備の体制整備について

松岡 寿（政友会）

#### 【災害廃棄物の発生状況と今後に備えて】

**問** 8月の豪雨による災害廃棄物の発生総量と処理先の内訳及び令和2年7月豪雨災害の経験が生かされたことや苦慮した点は。

**答** 災害廃棄物の総量は1,203 tで、牛深クリーンセンターと本渡地区清掃センターは合わせて71 t、市内の事業所323 t、市外の施設809 tの処理を行った。

令和2年豪雨の経験により、廃棄物仮置場の開設、運営、処理等において発災後2日目には受入れが可能となった。仮置場を同時に3か所開設したため、人員の確保に苦慮したが、他自治体からの人的支援や地元の収集運搬事業所等の協力があつた。

#### 【新ごみ処理施設整備に向けた体制整備】

**問** 天草広域連合において、新ごみ処理施設整備の計画が示され、令和14年度稼働開始を目指すと考えたが、本市としても引き続き事業に参加するのか。

**答** 新ごみ処理施設の整備は近年の物価高騰により事業費の増大が危惧されるが、価格のみで評価する事業ではないと認識している。本市としては、目標に向けたごみの減量化・資源化を推進し、これまでどおり2市1町の枠組みで整備していく方針である。

**問** 戸別収集やごみステーション等配置検討の必要性は。

**答** 戸別収集は他市の事例を収集していく。ごみステーションについては、地区の要望に応じて柔軟に対応し、今後も適正配置に努める。





### カスハラ対策、災害ごみ分別、空き家及び廃屋対策について

若山 敬介（無党派）

#### 【カスハラ対策について】

**問** カスタマーハラスメントの現状は。

**答** メンタルヘルス研修時のアンケートにおいて、16.4%の職員が「令和6年度中にカスハラがあつた」と回答した。

**問** カスハラ対策のマニュアル策定は。

**答** 12月中の作成を予定している。

**問** 市長から市民へ向けた発信は。

**答** 本市の基本姿勢を明確化し、市民へ適切な対応方針を周知していく。

#### 【災害時のごみの分別について】

**問** 8月の災害におけるごみの搬入量は。

**答** 3か所の廃棄物仮置場で1,203 t。処理委託費は1億3千万円程度になる。

**問** 災害ごみ分別に係る対応は。

**答** 被災者には負担をかけるが、設備の故障につながらないよう協力をお願いする。



▲災害廃棄物仮置場の状況

#### 【空き家及び廃屋対策について】

**問** 空き家の調査結果は。

**答** 令和4年の調査で7,012件。9年間で3,792件増加した。

**問** 都市計画区域内の空き地の調査結果は。

**答** 本渡区域で47.2ha。牛深で8.8ha。

**問** 条例への空き地の名称追加について。

**答** 空き家バンクにおいて、空き地についても利活用を推進している。今後、検討する。

**問** 移住・定住希望者に対する起業・創業も合わせた取組はできないのか。

**答** 現在、相談・資金援助・拠点確保・家賃補助と連携した支援制度・体制を整備している。地域活性化につながるよう取り組む。



### 防災・減災、地元企業の担い手確保について

柳田 光芳（公明党）

#### 【防災・減災について】

**問** 8月豪雨では内水氾濫が多発し、住宅や道路が広範囲に浸水した。特に被害が深刻だった地区の分析結果と今後の優先整備の方針は。

**答** 本渡南地区（浄南町・太田町付近）で被害が深刻であつた。今後は雨水ポンプの整備・点検、雨水幹線の土砂除去を進めるとともに、内水浸水想定区域図を作成し、計画雨量の見直しやポンプ排水能力増強、ほかの雨水調整対策を含め検討する。

**問** 車両浸水の被害状況と、車両の避難駐車場確保の検討は。

**答** 被災証明の申請件数では、210台の申請があつた。車両の避難を目的とした高台の駐車場の確保については検討していないが、今後も自主防災組織による避難場所の検討や避難ルート、避難先の共有について啓発を行っていく。



▲令和7年8月豪雨で浸水した駐車場（諏訪町）

#### 【地元企業の担い手確保について】

**問** 高校卒業後の市内就職率の現状と推移は。

**答** 令和7年3月末現在の天草管内の就職率は17.9%で、近年減少傾向にある。

**問** 若者の定着・回帰に向け、今後どのような取組を進めていくのか。

**答** 大学連携の講義、人材育成講座、企業説明会等を継続し、企業力向上と雇用創出を進め、若者が戻りたくなる環境づくりに取り組む。



### 豪雨災害への対応について

五嶋 善彦（市民クラブ）

**問** 8月豪雨では本渡地域でも浸水被害があつたが、排水ポンプの能力が不足したのではないかと。能力の増強などが必要では。

**答** 排水能力を上回る雨量であつた。ポンプ場の排水能力増強など検討していきたい。



▲令和7年8月豪雨直後の国道324号線（太田町）

**問** 有明町大浦地区においても、床上浸水などの被害が発生した。今後の対策として臨時的に大型ポンプを設置するなどの対応はできないか。

**答** 浸水災害を軽減する効果的な対策の一つである。全庁的に検討していきたい。

**問** 農地や農業施設の被害が多く発生し、基幹産業である農業の振興を支えるために自力復旧に対する補助制度を本市独自に創設された。市長の思いは。

**答** 本市の基幹産業である農業への危機感を抱き、一刻も早い復旧復興に取り組む思いである。また、支所を中心に進めている天草版地方創生を成し遂げていく上でも農業の振興は大変重要となってくる。

**問** 天草五橋の2号橋と3号橋間の土砂崩れによる国道の通行止めで本市は孤立状態となった。孤立を防ぐ代替道路として「八代・天草シーライン」の推進が必要では。

**答** 引き続き、熊本天草間幹線道路、三県架橋構想、八代・天草シーライン構想の早期実現に向けて取り組んでいく。